

コメント (篠原真毅)

現行の宇宙基本計画の実施において、JAXA を中心に宇宙開発利用の取組を強力に推進しつつ、宇宙戦略基金を通じた企業・大学支援等に取り組む、と掲げられたのは、世界の宇宙開発が民間主導へと移ろうとする中でわが国の宇宙開発もその流れに沿う形へと移行しようということはとても評価できる。しかし、宇宙に限らず、ここ数十年のわが国の「世界の流れに沿った改革」の過去を改めて振り返れば、成功したものばかりではなく、いわゆるローカル化に失敗してうまくいっていないことのほうが多いと感じている。現在の宇宙ベンチャーへの期待も大きいですが、現状他国ほど宇宙ベンチャーが成功している段階になっているとは思えない。もちろんまだ初期投資の段階であり、成長段階の前段階であるとは理解しているが、他国のやり方をそのまま持ってくるだけではうまくいかないと経験上感じる。他国のシステムを持ってくるだけではなく、わが国の長く培ってきた教育・文化・社会制度に合わせてしっかりとわが国にあったローカル化を意識して宇宙開発も進めるべきと考える。その観点ではやはりわが国の研究開発は一般に産官学の連携が必須と考えており、JAXA、民間企業、大学等の密な連携に期待したい。

宇宙科学においては、宇宙だけではないが、これまで研究にかかる費用が増加の一途をたどらざるを得ない流れがあり、わが国単独では新しい宇宙科学を発展させる難しさも理解しており、同盟同志国との連携は不可欠とは理解している。一方 DX や AI 活用等で研究開発をダウンサイジングしつつ新しい発見を行うことは他の研究ではすでに進んでおり、わが国の宇宙科学もその方向を模索すべきであろう。しかし前述と同じであるが、他国の成功例をまねただけではわが国の宇宙科学もうまくいくとは考えにくい。わが国がこれまで培ってきた研究のやり方を踏襲しつつ、科学であってもグローバル化が必要と考える。そのうえでできる限りわが国が主導権を握れる宇宙科学研究を期待したい。また、過去にうまくいかなかった研究開発のアップデートの研究開発を少し見かけるが、過去の研究開発事例を参考にしているのか疑問に思う時がある。私の知っている一企業の例であるが、企業内展示場に過去研究開発はしていたが製品化に至らなかった開発品を展示しているところがある。研究開発のアップデートをする際に、過去の踏襲もしくは過去の一掃の二極化で将来の研究開発をとらえるのではなく、過去に学び、その時にうまくいかなかった原因を分析して参考にして、新しく研究開発をアップデートしてほしいと願っている。